

フランスギク

Chrysanthemum leucanthemum

キク科



フランスギク

名前の由来

フランスのパリ郊外などに多く分布することから。キクは漢名の音読みとされるが、①久しく香り高いことから「久久(くく)」から、②花の形がものをすくう手の形に似ているので「掬」から、③カク(香薫)の意味、他の説がある。漢字名：フランス菊

形態的特徴

高さ30~60cmほどで、根元近くで分岐するが、上部では枝分かれせず直立する。茎、葉は濃い緑色。茎葉は楕円形へら形で柄はなく互生し、根出葉は長楕円形で長い柄を持つ。葉の縁には粗い鋸歯がある。頭花は茎頂に一つだけつき、径5cmほどで、中心部に黄色い筒状花が集まり、その周囲を白い花びら状の舌状花が取り囲む。群生して咲き乱

れる光景がよく見られる。

類似種と見分け方：イヌカミツレ。

フランスギクとイヌカミツレは花がよく似るが、葉の形が違うことで見分ける。フランスギクの葉はへら状でふちに丸みを帯びた鋸歯が入るが、イヌカミツレの葉は非常に細かく切れ込んだ櫛歯状の葉である。

生育環境・分布

道端や日当たりのよい草地などに群生する。

分布：国外分布は、ヨーロッパ原産で、アジア、南北アメリカなどの温帯に多く、一部は熱帯に広がる。

国内分布は、北海道から九州。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、道端や日当たりのよい草地で普通に見られ

る。しばしば群生する。



フランスギクの花。黄色い所が筒状花の集まり

フランスギクの葉

生活史

開花時期：6~7月。開花までの年数：不明。寿命：多年草。

他生物との関わり

花には虫が訪れる。

興味深い話

■かつては庭園で栽培されていたが、現在では各地で野生化している。

■フランスでは「Marguerite (マーガレット)」とよばれるが、日本で園芸上マーガレットとよばれるのは近縁のモクシュンギク (*Chrysanthemum leucanthemum*) である。

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期			■									
結実期			■									

参考文献

「日本帰化植物写真図鑑」清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 全国農村教育協会 2001

「北海道帰化植物便覧 2000年版」五十嵐博 北海道野生植物研究所 2000

「原色日本帰化植物図鑑」長田武正 保育社 1976

「北海道植物図譜」滝田謙譲 自費出版 2001

「図説 花と樹の大事典」木村陽二郎・植物文化研究会・雅麗柏書房 1996

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(鳥水辺)
類

(葦原森林)
鳥類
ワシ・タカ